

香川県立多度津高等学校

「ミニ水族館」一般公開による水産生物学習

年間2300人が来場する名物部活動

地元小学校などからの見学依頼も

香川県立多度津高等学校は瀬戸内海で水産科を有する伝統校だ。その生物科学部では大小 90 の水槽で約 100 種の水生生物を飼育しており、「ミニ水族館」として一般公開している。

最初は小規模な飼育だったが、水槽が増えるにつれて注目が集まり、5 年前の文化祭でミニ水族館の展示を行った。そこでの反響から定期的な一般公開へとつながり、昨年度は 6 回の公開で延べ 2300 人が来場したほか、地元小学校などからの見学依頼も受け入れた。

なかでも好評なのは部員による飼育生物の説明だ。2 年生の徳原光さんは「最初はコミュニケーションで苦労しましたが、回を重ねるうちに質問への対応力もついたと思います」と昨年度の自身を振り返る。



生物科学部のメンバー



8月に再開されたミニ水族館、一般公開の様子



前部長の松井穂里さんと部長の高谷晃さん



スポンモドキにエサとなるバナナをあたえる部員



水槽のメンテナンスは入念に

新型コロナウイルス禍で高まった責任感

今年度のミニ水族館では「生物多様性の大切さ」といったテーマの展示を企画していた。ため池の多い香川県では不法に外来魚が放流される例が多く、生物科学部ではそうした池での在来種・外来種研究も行っていったからだ。

それも新型コロナウイルス禍で 8 月に再開されるまで中止を余儀なくされたが、部員たちが最も気にかけてのは飼育生物のことだ。2 年生で部長の高谷晃さんは「緊急事態宣言中は何もできませんでした」と悔やむが、こればかりはどうしようもない。学校にいる先生にメールや電話で様子を探ねることしかできず、貴重なナマズ類など多くの生物を失った。

顧問の岡田智宏教諭は「大切に世話をしてきた生物の死に、部員たちは大きな衝撃を受けました」と言いつつも、「そのことで、活動の目的のひとつである『命を預かっているという責任感』は増したと感じています」と話していた。

(令和2年度個別助成)



●実施担当

岡田智宏 教諭

●活動のモットー

生徒たちに自己有用感を高めてほしい。そのため、コミュニケーション力の向上と命を預かる責任感、そして挨拶の大切さ(礼儀礼節)を重んじている。

学校概要



「清明強和」を校訓に、工業系・水産系の 6 学科、および進学コースなどが設置されている。来年、創立 100 周年を迎える伝統校。

設立:1922年

生徒数:575人

所在地:香川県仲多度郡多度津町栄町1丁目1番82号

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索